

村瀬さんは、野球部キャプテンとしての役目は終えたが、今も時間があればグラウンドに足を運び、ユニフォームを着て練習の手伝いをしている。



「患者さんを助けるため、積極的に治療する外科医になりたい」

医科歯科大 生 File

Tokyo Medical and Dental University

No.006

自ら問い、自ら導く学生たち

村瀬芳樹

(むらせ・よしき)さん
医学部医学科6年
野球部

●薬剤師の両親のもとに生まれ、子どものころから動物や植物などの生物が好きだった。薬学部ではなく医学部を志したのは、「特に生き物の生や死について興味があった」から。「手術で病気を治療するだけでなく、命に向き合い、生命について考える医師になりたい」と語る。



東京医科歯科大学野球部の部員は現在14人。部員数が少ないながら、週2回の練習や夏合宿、球場練習など活発に取り組んでいる。

医学部医学科6年の村瀬芳樹さんは、3年次の秋から5年次の夏までキャプテンとしてチームを牽引してきた。

「野球部員は、高校野球経験者はもちろん、軟式野球、ソフトボールの経験者、まったくの初心者など様々です。決して強いチームとはいえませんが、明るくチームワークのよいところが特徴です」と村瀬さんは語る。

村瀬さん自身は、小学校時代からずっと野球を続けてきた。キャプテンを務めるのは大学に入ってからが初めてだった。

「高校生の時はピッチャーでした。ピンチの時など、周りの野手がよく声を掛けてくれたのがとても励みになったことを思い出し、皆で元気に

声を掛け合いながら野球を楽しめるようなチーム作りを心がけてきました」

野球部のチーム運営をきっかけに、学園祭の実行委員長や学友会（生徒会）会長を歴任するなど学内での活動の幅が広がった。

「野球部のキャプテンを務めたことから、交流も広がりました。当時委員会で一緒だった先輩たちは、今、研修医や3、4年目の医師として病院で働いています。私が実習で診療科を訪れた時に知っている先生がたくさんいるので、とても心強いです」

卒業を控えた今は、部活動よりも学業を優先するようになった。自分の手を使って治療できる外科を志望しており、消化器外科の中でも肝胆脾外科に興味を持っているという。

「消化器は身体の中でもダイナミックな臓器の1つです。特に肝臓、胆道、膵臓の疾患は手術や薬物療法を含め

た集学的な治療を行います。

実習の際に肝胆脾外科の先生が、「たとえ10の病院でオペはできないといわれた症例でも助けるという攻めの姿勢で臨んでいる」と話していたのが印象的でした。自分もそんな外科医になりたいと思います」

実習には、患者さんとのように接するかを重視しながら取り組んでいるという。

「技術を身に付ける前に、医療の知識をしっかりと学んでおきたい。深い知識に基づいた診断があつて初めて適切な治療が可能になると思います。さらに医師としてのコミ

ュニケーションの在り方も身に付けたいと思います。高度な医療を実践するためには、患者さんと医師との間に良好な信頼関係を築くことも大切ですよ」

村瀬さんは、目の前の課題を一つひとつ乗り越えながら、その先に広がる将来に向けて期待を膨らませている。